

増える登山者、荒れる登山道

深いササやぶにおおわれていた丹沢山地は、昭和の初めまで、山仕事や一部の登山家しか来ない山でした。

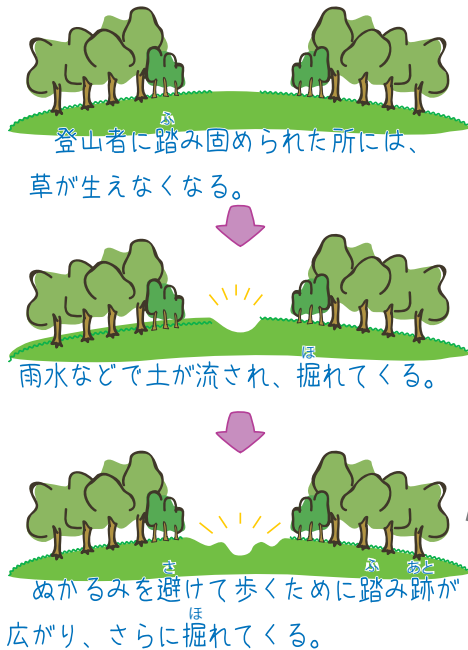
しかし、1955年の「第10回国民体育大会」で登山部門の会場になったことで登山道や山小屋が作られ、さらに「登山ブーム」が始まると、都会から登山客や観光客がたくさん訪れるようになりました。

多くの人が集中して登山道を利用（オーバーユース）することで、登山道が踏み固められ、その周辺の草木も踏みつけられ、荒れていきました。

草木が生えず、森がなくなると、山は水をたくわえられなくなります。

また、草木の根がおさえていた土が雨によって削られ、川に流されてしまいます（土壌流出）。土壌流出が進んだ山は、土砂崩れや洪水が起こりやすく、たいへん危険です。

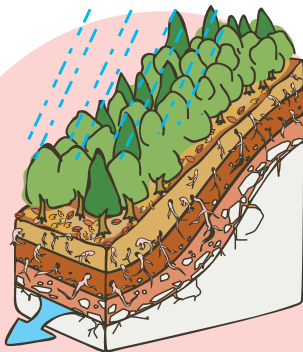
登山道が荒れるまで



オーバーユースにより深く掘られた登山道

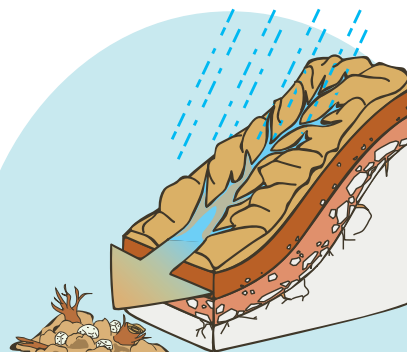
もり森がなくなると...

豊かな森林がある山



- 地表に届いた雨水のほとんどがしみこみ、森林にたくわえられる。
- 川に水が少しずつ流れこむので洪水になりにくい。
- 雨がやんだ後でも水をたくわえた森からゆっくり水がしみだすので、川の水が減りにくい。

森林がなくなった山



- 降った雨が地表を流れるため、土が削られて流れ出し、川の水がにごる。
- いっきに水が川に流れてしまうので、洪水になりやすい。
- 森が水をたくわえられないので、わき水が減り、川の水が少なくなる。
- やわらかく栄養豊かな土が流されるので、植物の芽が出ない。